

3 主要事業計画

(1) 資料・情報

- ア 長野県唯一の県立図書館の責務として、信州に関する地域資料（郷土資料）を網羅的に「収集」し、次世代に確実に継承する「保存」と、資料を最大限活かす「利用」とを戦略的にバランスよく行うため、県内外の関係機関との役割分担をし、蔵書構築を進める。
- イ 利用者自身が課題を見つけ、調べ、解決する力を身につけることを促す調査・相談（レファレンス）を実施する。国立国会図書館が運営する「レファレンス協同データベース」に事例を登録することで、調べ方を発信していく。
- ウ 情報アクセス環境の地域間格差是正のため、相互貸借送料支援および全県向けインターネット貸出を実施し、普及させる。
- エ 収集した資料を県民が利用し、さらなる資料を「創造」していく支援を行う。

(2) 空間の整備と、それに伴う活動の推進

- ア 「共知・共創」をコンセプトとする「信州・学び創造ラボ」において、県民の主体的活動と学びのコミュニティづくりを促し、これからの公共空間や新たな学びのモデル構築を図る。
- イ 試行錯誤ができるツールとして「モノコトベース」をさらに活用し、コミュニティや関係機関とも協働しながら、新たな創造の仕組みを拡げていく。
- ウ 実空間と情報空間を融合させ、ICT を利活用したコミュニケーションの場を企画・提供する。
- エ 図書館を、新しい出会いと発見が促される場と捉え、1 階児童図書室・2 階一般図書室における新しい発見・学びのプログラムを展開する。

(3) 各県域・分野における県民の学びを支える人材育成支援

- ア 司書としての役割を果たす人材の育成として、初任・中堅等向けの研修や、共通する課題に取り組み、各館の運営に生かす「これからの公共図書館研究会」を開催する。
- イ 広域単位での公共図書館・学校図書館に対する研修会の開催支援（企画相談、講師派遣・紹介等）や、各地域の会議等への出席を通じて、各地域の活動を後押しする。
- ウ 広く社会教育に関わる分野や全国の取り組みを俯瞰したテーマ設定のもと、県民の学びを創発する機会として「信州発・これからの図書館フォーラム」等を開催する。
- エ 信州における価値ある地域資源の共有化をはかり、新たな知識化・発信を通して、地域住民の学びを豊かにし、地域創生につなげることを目的とした「信州 知の連携フォーラム」を一層推進する。
- オ 全国の人々が集いこれからの児童・青少年サービスを検討する場として「全国公共図書館研究集会児童・青少年部門」を開催する。

(4) 「長野県 eLibrary 計画」によるデジタル化・ネットワーク化の推進

- ア 図書館機能の高度化の方策として、県内各種機関所蔵情報のデジタル化・公開支援、手続き・サービスのデジタル化、空間や場のネットワーク化と、これらを融合し使いこなす学びを推進する。
- イ 自ら学び、調べるためのコンテンツとして、地域資料（郷土資料）を優先的に電子化し、「信州ナレッジスクエア」のコンテンツを拡充するとともに、長野県で生産される知的生産物を収集・保存・発信できる仕組みを提供する。
- ウ 市町村と県による協働電子図書館「デジとしよ信州」及び「県立長野図書館電子書籍サービス」によって、読書バリアフリー、学校と連携した活用、地域資料（郷土資料）の電子化・公開を進める。